

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

昨年度の授業改善推進プランの手立てにあげた、四則計算や基礎・基本の定着は、繰り返し行うことで良くなってきた。文章題の立式については、問題文に印をつけることやテープ図をかくなど学年に応じて工夫した指導をしてきたことでできる児童が増えてきた。ICTの利用も積極的に行ってきたことで発表などに生かすことも増えた。

(2) 課題

- ・整数、小数、分数の数のしくみや四則計算については、良くなってきた部分もあるが、単元が終わるとでなくなる児童や、桁が増えたり、小数や分数の計算になったりすると間違えが増える児童が多い。そのため、単元終了後も定期的に繰り返し行うことや中学年以上では正しく筆算をかく習慣をつけることが大切である。
- ・三角定規、分度器、コンパスの使い方については正しく使える児童が少ないので、下学年から繰り返し使うことが大切で、その際、ICTを上手に活用して分からない児童にも繰り返し確認できるようにする必要がある。また、低学年では、定規、三角定規を筆箱や道具箱に、3年生以上では三角定規、コンパス、分度器（算数セット）を学年ごとに準備させることを徹底していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	校内平均正答率は目標値を上回っている		
第5学年	校内平均正答率は目標値と同程度であった	校内平均正答率は目標値と同程度であった（第4学年時）	
第6学年	校内平均正答率は目標値と同程度であった	校内平均正答率は目標値と同程度であった（第5学年時）	校内平均正答率は目標値を上回っている（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を上回っているが、たし算・ひき算・かけ算の筆算については若干、目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っていた。特に時間・長さ・重さの測定やデータの活用についてはかなり上回っていた。

② 5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内正答率は、目標値と同程度であったが、概数・わり算の筆算・小数のたし算ひき算については、目標値を下回っていた。	校内正答率は、目標値と同程度であったが、変わり方調べの説明やグラフの活用については、目標値を下回っていた。	校内正答率は、目標値と同程度であったが、平行四辺形の作図については目標値をかなり下回っていた。

③ 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内正答率は、目標値と同程度であったが、小数や分数の四則計算と面積・体積の計算が目標値を下回っていた。また、割合についてはかなり目標値を下回っていた。	校内正答率は、目標値と同程度であったが、小数の問題の立式や計算の仕方の説明とグラフを読み取って説明することは目標値を下回っていた。	校内正答率は、目標値と同程度であったが、記述問題については目標値を下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎・基本の定着を図るため、繰り上がり・繰り下がり計算やかけ算を繰り返し行い、基礎計算力の向上を図る。 ○長さの単位や水のかさの単位を正しく使えるように、実物を使ったり、実際に測ってみたりする活動を取り入れる。 ○日常的に時計で時間を確認することで、読み方の定着を図る。	○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合ったり、ノートに説明や図をかかせたりする。 ○デジタル教科書のアニメーションを活用し、問題場面を捉えやすくする。 ○文章問題の文末に注目し、なぜその式になるのか説明させることを1年生から継続して行う。	○学習したことを、生活の場面で活用できるように、実際に使われている物を見せ、学習したことを実感させる。他教科の中でも学習したことを活用する場面を設ける。 ○オクリンク等を活用し、生活の中で学習したことを写真に撮るなどして共有する。 ○ノートに線を引く時は、ものさしや定規を使うなど、日常的に道具を使う場面を設ける。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○基礎・基本の定着を図るため、繰り上がり、繰り下がり計算やかけ算・わり算の筆算の練習を繰り返し行い、基礎計算力の向上を目指す。また、概数の概念を用いた答えの求め方も繰り返し練習させて定着を図る。 ○分度器を正しく使って角度を測ることを繰り返し練習させて習熟を図る。	○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、問題を読んだ後にテープ図や線分図にして説明させるようにする。 ○デジタル教科書のアニメーションを活用し、問題場面を正しく捉えさせた上で、解き方を全体に説明する場面をつくるようにする。	○コンパスを使って模様を描く機会などを積極的に作り、児童が主体的に道具になれ、習熟を図れるようにする。 ○単元末に学習を振り返る活動を行い、できるようになったことを価値づけたり、今後の生活や学習に活用できるように発問を工夫したりする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○小数や分数の四則計算の定着を図るために、繰り返し既習事項の復習を行う。その際に、正しくノートやドリルに筆算や途中式を書くようにさせる。また計算の前に答えの見当をつけたり、見直しで位が正しいか考えたりすることを意識づけ、計算のミスが減るように工夫させる。 ○割合や単位量の関係を捉える問題を苦手としているので、基準量や比較量が何かを考え、その関係を数直線や図で表してから求めるようにさせる。	○文章題では、必要な情報がわかるように文を区切って整理することを通して、立式を正しくできるようにする ○「データの活用」では、必要なデータをグラフや表にして読み取るだけでなく、そこから導き出される結論や問題解決の過程を考察させ、相手に伝わるように説明することを意識させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT機器の活用もしていく。	○分度器やコンパス・定規を使って、正しく三角形や四角形を描く機会を積極的につくり、習熟を図れるようにする。 ○日常の事象を数理的に捉え、概数で求める場面などを設定し、学習したことを実際の生活の場面に応用して考えられるようにする。 ○1つの方法だけでなく、様々な解き方を考えさせ、それを記述して相手に分かるように説明する場面を意図的に作っていく。その際にはオクリンクなどのICTも活用していく。